



保医発0131第4号
令和5年1月31日

地方厚生（支）局医療課長
都道府県民生主管部（局）
国民健康保険主管課（部）長
都道府県後期高齢者医療主管部（局）
後期高齢者医療主管課（部）長

} 殿

厚生労働省保険局医療課長
（公印省略）

厚生労働省保険局歯科医療管理官
（公印省略）

検査料の点数の取扱いについて

標記について、「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」（令和4年3月4日付け保医発0304第1号）を下記のとおり改正し、令和5年2月1日から適用するので、貴管下の保険医療機関、審査支払機関等に対して周知徹底をお願いいたします。

記

1 別添1第2章第3部第1節D007（41）アを次のとおり改める。

（41） オートタキシン

ア 「48」のオートタキシンは、サンドイッチ法を用いた蛍光酵素免疫測定法、化学発光酵素免疫測定法又は酵素法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者（疑われる患者を含む。）に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。

2 別添1第2章第3部第1節D012に次を加える。

（58） 単純ヘルペスウイルス抗原定性（皮膚）は、単純ヘルペスウイルス感染症が疑われる皮膚病変を認めた初発の患者に対し、イムノクロマト法により実施した場合に本区分「37」単純ヘルペスウイルス抗原定性を準用して算定できる。なお、当該検査を2回目以降行う場合においては、本検査を実施した医学的な必要性を診療報酬明細書の

摘要欄に記載すること。ただし、本区分「37」単純ヘルペスウイルス抗原定性及び「44」単純ヘルペスウイルス抗原定性（角膜）、単純ヘルペスウイルス抗原定性（性器）は併せて算定できない。

3 別添1第2章第3部第1節D023に次を加える。

(37) 結核菌群リファンピシン耐性遺伝子及びイソニアジド耐性遺伝子同時検出

ア 結核菌群リファンピシン耐性遺伝子及びイソニアジド耐性遺伝子同時検出は、塗抹検査又はその他の検査所見で結核菌感染の診断が確定した患者を対象として、薬剤耐性結核菌感染を疑う場合に、本区分「20」ウイルス・細菌核酸多項目同時検出の所定点数を準用して算定する。

イ 結核菌群リファンピシン耐性遺伝子及びイソニアジド耐性遺伝子同時検出と本区分「19」の結核菌群リファンピシン耐性遺伝子検出及び結核菌群イソニアジド耐性遺伝子検出を併用した場合は、主たるもののみ算定する。

(参考：新旧対照表)

◎「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」（令和４年３月４日付け保医発 0304 第１号）

改 正 後	現 行
<p>別添 1</p> <p>医科診療報酬点数表に関する事項</p> <p>第 1 章 （略）</p> <p>第 2 章 特掲診療料</p> <p>第 1 部・第 2 部 （略）</p> <p>第 3 部 検査</p> <p>第 1 節 検体検査料</p> <p>第 1 款 検体検査実施料</p> <p>D 0 0 0 ～ D 0 0 6 － 28 （略）</p> <p>D 0 0 7 血液化学検査</p> <p>(1) ～ (40) （略）</p> <p>(41) オートタキシン</p> <p>ア 「48」のオートタキシンは、サンドイッチ法を用いた蛍光酵素免疫測定法、<u>化学発光酵素免疫測定法又は酵素法</u>により、慢性肝炎又は肝硬変の患者（疑われる患者を含む。）に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。</p> <p>イ （略）</p> <p>(42) ～ (53) （略）</p> <p>D 0 0 8 ～ D 0 1 1 （略）</p> <p>D 0 1 2 感染症免疫学的検査</p> <p>(1) ～ (57) （略）</p> <p><u>(58) 単純ヘルペスウイルス抗原定性（皮膚）は、単純</u></p>	<p>別添 1</p> <p>医科診療報酬点数表に関する事項</p> <p>第 1 章 （略）</p> <p>第 2 章 特掲診療料</p> <p>第 1 部・第 2 部 （略）</p> <p>第 3 部 検査</p> <p>第 1 節 検体検査料</p> <p>第 1 款 検体検査実施料</p> <p>D 0 0 0 ～ D 0 0 6 － 28 （略）</p> <p>D 0 0 7 血液化学検査</p> <p>(1) ～ (40) （略）</p> <p>(41) オートタキシン</p> <p>ア 「48」のオートタキシンは、サンドイッチ法を用いた蛍光酵素免疫測定法又は化学発光酵素免疫測定法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者（疑われる患者を含む。）に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。</p> <p>イ （略）</p> <p>(42) ～ (53) （略）</p> <p>D 0 0 8 ～ D 0 1 1 （略）</p> <p>D 0 1 2 感染症免疫学的検査</p> <p>(1) ～ (57) （略）</p> <p>(新設)</p>

ヘルペスウイルス感染症が疑われる皮膚病変を認めた初発の患者に対し、イムノクロマト法により実施した場合に本区分「37」単純ヘルペスウイルス抗原定性を準用して算定できる。なお、当該検査を2回目以降行う場合においては、本検査を実施した医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。ただし、本区分「37」単純ヘルペスウイルス抗原定性及び「44」単純ヘルペスウイルス抗原定性（角膜）、単純ヘルペスウイルス抗原定性（性器）は併せて算定できない。

D 0 1 3～D 0 2 2 （略）

D 0 2 3 微生物核酸同定・定量検査

（1）～（36）（略）

（37） 結核菌群リファンピシン耐性遺伝子及びイソニアジド耐性遺伝子同時検出

ア 結核菌群リファンピシン耐性遺伝子及びイソニアジド耐性遺伝子同時検出は、塗抹検査又はその他の検査所見で結核菌感染の診断が確定した患者を対象として、薬剤耐性結核菌感染を疑う場合に、本区分「20」ウイルス・細菌核酸多項目同時検出の所定点数を準用して算定する。

イ 結核菌群リファンピシン耐性遺伝子及びイソニアジド耐性遺伝子同時検出と本区分「19」の結核菌群リファンピシン耐性遺伝子検出及び結核菌群イソニアジド耐性遺伝子検出を併用した場合、主たるもののみ算定する。

D 0 2 3－2～D 0 2 5 （略）

第2款 （略）

第2節 削除

第3節・第4節 （略）

D 0 1 3～D 0 2 2 （略）

D 0 2 3 微生物核酸同定・定量検査

（1）～（36）（略）

（新設）

D 0 2 3－2～D 0 2 5 （略）

第2款 （略）

第2節 削除

第3節・第4節 （略）

第4部～第13部（略） 第3章（略）	第4部～第13部（略） 第3章（略）
-----------------------	-----------------------